

外国人客員研究員

乾物生産力および根系形質の異なるイネ品種の低肥沃土条件適応性の比較

エスタ・ワキウル・ギコニョ ケニア農業研究所カベテ支所 主任研究員
外国人客員研究員（任期：2013年6月4日～12月2日）



私がICCAE客員研究員として来日することとなった最初のきっかけは、2013年3月に私の勤務先であるケニア農業研究所（KARI）のムレイズィ副所長にICCAEの榎原准教授を紹介されたことでした。榎原准教授から地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）による国際共同研究「テラーメード育種と栽培技術開発による稲作研究プロジェクト」について説明を受け、プロジェクトへの参加とICCAE客員研究員就任を打診されました。プロジェクトのケニアにおける実施拠点は、私の勤務地であるケニアの首都ナイロビから約120km離れたムエア灌漑地区にあります。このため、プロジェクトに参加することは、現在行っている仕事だけでなく、生活面にも大きな影響を及ぼします。しかし、私は、研究者としてケニアの食糧生産向上に貢献できる良い機会であり、また、私がこれまで取り組んできた作物の肥料反応性やイネのリン利用効率に関する研究の経験を生かすことができると考え、すぐに参加を決めました。ICCAEにおいては、肥沃度の低い土壌条件に対するイネ品種の適応性の評価に取り組みます。低肥沃土条件下におけるイネの生産性向上は、ケニアにおけるイネ栽培の大きな課題のひとつです。日本とケニアによる国際共同研究を通して、このような条件に適したイネ品種が持つべき形質を特定するとともに、その機能的特徴を明らかにしていきたいと考えています。

略歴 1959年ケニア生まれ。1985年ナイロビ大学農学部卒業、1998年同大学大学院農学研究科修士課程修了、2006年マレーシア プトラ大学大学院農学研究科博士課程修了。1985年ケニア農業省国立農業研究所農務官を経て、1990年よりケニア農業研究所研究員、2007年同上級研究員、2012年同主任研究員に昇格し、現在に至る。

日本学術振興会特別研究員（RPD）

イネ耐旱性関連形質の同定ならびに環境ストレス要因との相互作用

仲田 麻奈 日本学術振興会特別研究員（RPD）
（任期：2013年4月1日～2016年3月31日）



世界のイネ栽培面積の約3分の1が、降雨に依存して栽培する天水田栽培によるものです。天水田栽培において問題となるのが、イネの生産性低下の主要な要因である乾燥ストレスです。また灌漑水田においても、世界的な水資源不足によって利用可能な水の量は今後ますます規制されます。したがって、耐旱性イネ品種の開発は、焦眉の課題です。

本研究では、耐旱性イネに必要な形質の同定とその機能解析を、根に注目して進めていきます。また、根に影響を及ぼす土壌を含めた環境要因を正確に把握することが重要です。そこで、対象栽培地域における乾燥ストレスの特徴を、土壌環境に注目して調べます。さらに、有用形質と環境要因との相互作用を評価することによって、さまざまなストレス環境や耕地環境に適応できる、実用性を有した耐旱性イネ品種育成に向けた方向性を提示します。



フィリピンの天水田農家圃場

略歴 1981年生まれ。2005年近畿大学農学部農学科卒業。2007年名古屋大学大学院生命農学研究科博士課程前期課程修了。2011年名古屋大学大学院生命農学研究科にて博士号（農学）取得。日本学術振興会特別研究員（PD）、名古屋大学農学国際教育協力研究センター研究機関研究員を経て、2013年4月より現職。

オープンセミナー（2012年12月～2013年5月）

回数	日時	テーマ	講師	所属
2012年度 第5回	2013年 2月20日	アフリカの農業研究の発展に対する国際熱帯農業研究所（IITA）の役割	ウテランヤ・サンギンガ	国際熱帯農業研究所（IITA） 所長
第6回	2月26日	アフリカイネ野生種 <i>Oryza longistaminata</i> の特性と利用	前川 雅彦	岡山大学資源植物科学研究所教授 農学国際教育協力研究センター客員教授
2013年度 第1回	5月7日	多収イネの姿—中国雲南省の超多収事例から見えること—	桂 圭佑	京都大学大学院農学研究科附属農場助教 農学国際教育協力研究センター客員准教授